

第 11 回日中建築・住宅技術交流会議参加報告

(一財) 日本建築センター、(一財) ベターリビング、中国建設科技集団股份有限公司の 3 機関による「第 11 回日中建築・住宅技術交流会議」が開催されました。今年はコロナウイルス感染拡大防止のため、東京と北京を結ぶ Web 会議方式にて行われ、当協議会からも 12 社 17 名と事務局が参加しました。

日中建築・住宅技術交流会議について

【会議の歴史】

1985 年、(財) 日本建築センターと中国建築技術発展研究中心 (現中国建設科技集団) は、「第 1 回日中建築センター交流会議」を開催し、以降各年または隔年で 2002 年の第 12 回まで開催されました。

2004 年 12 月、より幅広い情報交換を推進するため、(財) ベターリビングと中国建築科学研究院を加えた 4 機関による会議を「第 1 回日中建築・住宅技術交流会議」(CC 会議) と名称を変更して開催し、その後隔年で日中相互の開催地で実施されています。2014 年の第 6 回からは、中国側は中国建築設計研究院 (現中国建設科技集団) の 1 機関のみが参加して開催しています。

第 11 回日中建築・住宅技術交流会議 (CC 会議)

- 開催日時：2020 年 11 月 25 日 (水)
13：30～18：00
- 開催場所：(一財) 日本建築センター (東京)
中国建設科技集団有限公司 (北京)
- 主催機関：日側；(一財) 日本建築センター (BCJ)
(一財) ベターリビング (CBL)
中側；中国建設科技集団股份有限公司 (CCTC)
- 参加機関：
日本側：BCJ 4 名、CBL 5 名
国土交通省住宅局総務課国際室 1 名
日中建協：12 社 17 名と事務局 1 名、合計 18 名
中国側：CCTC、中南建築設計、中国不動産業協会、中国建築学会、オブザーバー合計 162 名
- 日本側発表について
 - 「住宅における良好な温熱環境の実現について—適切な温度で健康住宅に—」
発表者：(一財) ベターリビング住宅部品事業推進部企画開発課長 船山良幸氏
日本の住まいについて、省エネルギー基準に則した断熱化が進んでいないため、冬季に寒い住宅が多い現状や冬季の室温が血圧、糖尿病などの健康指標へ及ぼす影響として得られつつある知見についての報告があった。
また、良好な温熱環境の実現手段としての基本的な対策や設計目標 (温熱環境暫定水準案)、ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の紹介があり、(一財) ベターリビングの取り組みとして、実験住宅などでの温熱環境の実証実験結果、優良住宅部品 (BL 部品)、普及に向けた取り組みなどについて紹介があった。
 - 「日本の建築住宅業界におけるコロナ防止対策」
発表者：(一財) 日本建築センター国際部長 勝見康生氏
コロナ禍の中で建築住宅業界の売上高の推移や政府の支援策などの紹介、建築住宅業界での新型コロナウイルス感染対策についての発表。国土交通省からは「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」が、(一社) 住宅生産団体連合会からは「住宅業界におけ

る感染予防ガイドライン」が発せられており、それに基づく各社の製造工場、マンションギャラリー、事務所等での対策内容や建築確認申請の電子申請システムなどの活用について説明があった。

6. 中国側発表について

1) 「中国健康住宅の研究と実践」

発表者：中国建設科技集団健康建築・健康社会技術研究センター主任 張磊氏

居住空間が直面する健康問題というテーマにて、各国の平均寿命や中国内での慢性非感染症疾患の変革のデータを用い、中国内での健康問題にも言及、今後どのように改善していくかについての発表をした。直近では、健康住宅建設技術規程が2019年作成された内容や、ITを用いるサービスなどの構築についての説明がされた。

2) 「緊急感染対策プロジェクトの管理」

発表者：中南建築設計院医療健康事業部総経理助理 謝琥氏

コロナ発生、感染拡大が最も酷かった武漢にて、患者を収容するための病院を10日間で建設するという大プロジェクトについての発表。与えられた短い時間で、如何に効率よく建設するか検討、実践したかについての内容や建物自体はコンテナ式のモジュールを用いるなどの工夫を凝らし、建築設計や施工を行ったかなどの紹介があった。

7. 会議総括：(一財)ベターリビング理事長 井上俊之氏(要旨)

今回の会議はWeb会議方式となりましたが、きちんとコミュニケーションもとれ、大変有意義な時間でした。最初は健康住宅という内容にて2つの発表がありました。まずはベターリビングの船山さんから、日本の温熱環境についての発表となり、健康に対しての影響、それに対するベターリビングの取り組みを含めた対応の説明でした。そして、中国科技集団の張さんからの発表では、世界の寿命や中国内での慢性疾患について具体的なデータとデジタル技術を活用したスマート住宅管理などの発表がありました。続いて、日本建築センターの勝見さんからは、日本の建築住宅業界がコロナ禍において、工夫や現場での対応をしている内容の発表があり、併せてウッドライズ2021の説明もありましたので、中国の方々にも是非参加頂きたいと考えています。最後に中南建築の設計院の謝さんからは、緊急の病院建設についての発表がありました。大変わかりやすい説明をして頂いたのですが、短時間にあれほどのプロジェクトを完成させたという事については、本当に不思議で感銘を受けています。今後、建築分野でも中国の皆さんと力を合わせながら、コロナ禍を乗り越え、様々な取り組みを行っていきたいと考えます。

8. 覚書調印

日中双方より会議が所期の目的を果たし、成功裏に終了したとの報告があった。2021年、日本において「第12回日中建築・住宅技術交流会議」を開催することに日中双方が同意し、日中双方の代表者が署名を行った。

今回の第11回日中建築・住宅技術交流会議において、健康住宅とコロナウイルス対策などについて日中双方からの発表がありました。とりわけ、健康住宅は日中の2国のみならず、世界各国で注目されている話題ですので、会員企業様にとっても事業展開の機会を窺えるのではないのでしょうか。

詳細については、会報誌『日中建協NEWS』No249号(2021年1・2月号)に掲載しています。

